

直前東大地理発展演習

【3 回目】



添削課題

【1】

解答例

設問 A

有明海は干満の差が大きく、干潮時には広大な干潟が出現する。このため、干潮時には水門を閉鎖して三池港の最奥部に一定の水深を維持し、船舶の係留を可能とするように工夫されたから。(86 字)

設問 B

- (1) 神通川沿いに鉄道で富山港へ、その後船舶で三池港へ輸送した。(29 字)
- (2) 出炭量は第二次世界大戦中の石炭増産政策で増加したが、大戦末期の空襲や終戦後の混乱で激減した。人口は戦後復興とともに回復したが、出炭量は設備の老朽化などにより落ち込んだ状態が続いた。(90 字)
- (3) 三池炭鉱で産出された石炭の安定供給先を確保することと、産業の多角化によってこの地域の振興をはかる必要があったから。(57 字)
- (4) 円高の進行による輸入アルミニウムとの競争の激化に加え、2度の石油危機や公害規制強化などによる製造コストの上昇に見舞われた結果、採算が悪化して事業継続が困難となり、閉鎖された。(87 字)

設問 C

- (1) 名称－石見銀山，都道府県－島根県
- (2) 群馬県。養蚕業が盛んであったため、生糸の原料となる繭の確保が容易であった。また、動力となる用水の確保も容易であった。(58 字)

解説

《旧産炭地域の産業構造の変化と産業遺産》

福岡県南部に位置する大牟田市一帯を示した図 1－1（平成 24 年 3 月 1 日国土地理院発行の 25,000 分の 1 地形図「大牟田」の一部を 81% に縮小，一部改変）を用いて，有明海沿岸に広がる干潟の特性を反映した三池港の特色，かつて三池炭鉱を核とする石炭関連産業で栄えたこの地域の産業の特色，さらに，近年注目されている産業遺産などについて問うた。

設問 A.

鳥が東の方へ向かって羽ばたく姿をイメージして築港されたといわれている三池港の最奥部，すなわち，羽ばたく鳥の頭部に相当する場所に注目すると，ちょうど頸部に相当する場所に水門（閘門）が設けられていることを読み取ることができる。ここに水門が設けられている理由を，3つの指定語句（有明海，係留，干潟）をすべて用いて説明するよう求めた。

解答例に示したように，(i)有明海の干満差が大きいこと，(ii)このため干潮時に広大な干潟が出現すること，(iii)この影響で干潮時に三池港に船舶を係留することが困難となること，(iv)その対策として干潮時に水門（閘門）を閉じて三池港の最奥部に一定の水深を維持できるように工夫されたことを指摘すればよい。

有明海は湾口部で平均 3～4 m，湾奥部で平均 5 m 程度（最大約 6 m）という日本最大級の

干満差を有していることを確認しておこう。また、土砂の流入によって航路の埋積が生じることを防ぐために、三池港へ至る航路沿いに長い防砂堤（南側の防砂堤は、「九州三井アルミニウム工業」の工場が立地する干拓地がその役割を果たしている）が建設されていることにも注目したい。このような構造を背景として、「三池港」の平面形状は鳥が羽ばたく姿を想起させることを理解しておこう。

設問B.

かつて石炭の積み出し拠点として繁栄した三池港が位置している、福岡県大牟田市の人口と出炭量の変化を示した図1－2に関して出題した。

(1).

1910年代後半に大牟田市の人口増加が加速しているのは、ここに岐阜県北部（現在の飛騨市）に位置する神岡鉱山で産出された亜鉛鉱の精錬を行う工場が建設されたことなどを契機として、石炭化学コンビナートの形成が進んだためである。本問では、岐阜県北部に位置する神岡鉱山で産出された亜鉛鉱を、大牟田市に建設された精錬工場へ輸送する経路について、2つの指定語句（神通川、港）をすべて用いて説明するよう求めた。

解答例に示したように、(i)まず神通川沿いに敷設された鉄道で神岡鉱山から日本海側の富山港へ輸送されたこと、(ii)その後、船舶で富山港から三池港へ輸送されたことを指摘すればよい。

岐阜県の県土の空間的な特色に注目して、神岡鉱山で採掘された亜鉛鉱の積出港が太平洋ベルトに位置する港湾よりも、地理的近接性に優れた日本海側の港湾であることを判断できたか否かがポイントである。

なお、神岡鉱山は三池炭鉱同様、三井財閥系の鉱山であったため、神岡鉱山の亜鉛鉱の精錬がこの地で行われることになった。

(2).

1945（昭和20）年前後に、大牟田市の人口と出炭量が大きく変動した理由を説明するよう求めた。

1945年が、太平洋戦争の終戦の年であったことに気付くことができたか否かがポイントである。この点に気付けば、解答例に示したように、(i)第二次世界大戦時の石炭増産政策により出炭量の増加（戦争に伴う石油の輸入の減少が一因）と、それを支える労働力（＝人口）の増加が見られたこと、(ii)大戦末期の空襲や終戦に伴う混乱で出炭量が大きく落ち込み、その影響で労働力（＝人口）の大きな減少が生じたこと、(iii)戦後復興とともに人口が回復したこと、(iv)設備の老朽化などを背景として出炭量は落ち込んだ状態が続いたこと、などを理路整然とまとめることができるだろう。

(3).

1968（昭和43）年に、大牟田市にアルミニウム精錬工場の建設が開始された背景を説明するよう求めた。

図1－2から明らかなように、終戦後の大牟田市の出炭量は1960（昭和35）年をボトムとして、その後ピークを迎える1970（昭和45）年までの間に大きく増加している。これは、1960年の三池争議を契機として、炭鉱での大規模な機械化・合理化が推進されたことを背景としている。出炭量が増加するのに伴い、産出された石炭の安定供給先を確保する必要と、炭鉱での大規模な機械化・合理化によって生じた余剰労働力を吸収する産業の立地を促進して地

域振興を図る必要が強まった。このため、この地域を企業城下町としていた三井グループによって設立された企業（「三井アルミニウム工業」）によって、三池炭鉱の坑口に近接する地点に石炭火力発電所と、生産された電力を大量消費してアルミナの電気分解を行うアルミニウム精錬工場の建設が開始されたのである。

(4).

(3)で取り上げたアルミニウム精錬工場が、1968（昭和43）年の建設開始以降どのような経営状況を示したかについて、説明するよう求めた。

解答例に示したように、(i)円高の進行によって輸入アルミニウムとの競争が激化したこと、(ii)2度の石油危機や公害規制強化などによって製造コストの上昇に見舞われたこと、(iii)この2点((i)と(ii))を背景に採算が悪化し、事業継続が困難となったことを指摘すればよい。

(i)については、「1ドル＝360円」の固定相場制から変動相場制へ移行した影響で、1971年8月のニクソンショック（1ドル＝308円への円高進行）などを経て、1978年に1ドルが200円を切る状態となったように、1970年代に急激な円高が進行したことを確認しておこう。また、急激な円高の進行によって、日本の輸出産品の価格が海外市場で大きく値上がりしたり、日本の輸入産品の価格が日本市場で大きく値下がりした結果、日本の輸出産業や輸入産品と競合する産業が深刻なダメージを被ったことも理解しておきたい。

(ii)については、大牟田市に建設されたアルミニウム精錬工場が自家用の石炭火力発電所により供給される電力を利用していたことから、石油危機に対して国内の同業他社に比べて有利な状況にあったのは事実である。しかし、石油危機の影響によって資材価格や輸送費などが高騰したことを見落とさないようにしたい。

最後に(iii)に関して蛇足ながら付け加えると、1968（昭和43）年に設立され、大牟田市に工場の建設を開始した三井グループのアルミニウム精錬メーカー（「三井アルミニウム工業」）は、設立からわずか20年で解散し、アルミニウム精錬事業から撤退することを余儀なくされた。図1-1の南西部の三池港入口付近に存在する「九州三井アルミニウム工業」の工場は、アルミニウム精錬事業を行っていない点に注意したい。「九州三井アルミニウム工業」は、「三井アルミニウム工業」の鋳造事業を継承した企業で、アルミ合金ビレット、高純度アルミといった素材や、アルミ鋳物製品、半導体製造装置用アルミ真空容器といった半導体機器の製造・販売などを事業内容としている。

なお、日本国内に存在するアルミニウム精錬工場として知られた静岡市清水区に立地する「日本軽金属蒲原製造所」も2014年3月末、アルミニウム精錬（電解）事業を停止した。

設問C.

図1-1中に示された地域に、江戸末期から昭和期にかけて日本の近代化を支えてきた様々な産業遺産が残存していることにも注目したい。「産業遺産」は、イギリスで産業考古学が成立した後に使われるようになった“Industrial Heritage”の日本語訳で、産業革命以降の鉱工業関連の遺産をさすことが多い。国際産業遺産保存委員会（TICCIH）が2003年に採択したニジニアタギル憲章では、「歴史的・技術的・社会的・建築学的あるいは科学的価値のある産業文化の遺物」と定義されている。日本では、明治期以降の産業遺産の中で優れたものを近代化遺産として重要文化財に指定して保護を行っているほか、登録文化財制度や近代化産業遺産制度によって保護を行っているものも存在する。

今日、「三井三池鉱」に関連しては、「宮原坑施設」や「万田坑施設」などが重要文化財、「三井三池炭鉱跡」などが史跡に指定されている。また、「九州・山口の近代化産業遺産群」の一部として、2009年1月にユネスコの世界文化遺産暫定リストに記載され、2015年7月には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として世界遺産への登録が決定した。

(1).

今日、産業遺産はユネスコの世界遺産にも多く含まれているが、世界で最初に登録されたものはポーランドのヴィエリチカ岩塩坑（1978年登録）、日本（アジア）で最初に登録されたものは島根県の石見銀山（2007年登録）であった。

(2).

1872（明治5）年に操業を開始した群馬県の「富岡製糸場」とそれに関連する絹産業文化遺産を、ユネスコの世界遺産に登録する取り組みが推進された。2007年には、「富岡製糸場と絹産業遺産群」として日本の世界遺産暫定リストに加えられ、2012年7月には文化庁の文化審議会世界文化遺産特別委員会で世界遺産へ推薦することが了承され、8月には2014年の登録をめざして日本政府が正式に推薦することが決定された。そして、2014年6月のユネスコ世界遺産委員会で、世界文化遺産に正式に登録された。

群馬県の富岡に日本初の機械製糸工場である「富岡製糸場」が建設された最も重要な理由としては、解答例に示したように、(i)一帯で養蚕業が盛んに行われていたため、生糸の原料となる繭の確保が容易であったこと、(ii)利根川水系の河川が流れており、動力となる用水の確保も容易であったことを指摘すればよい。製糸業が、繭から絹織物の原材料となる生糸を生産する産業で、明治期から昭和初期にかけて日本が外貨を獲得する上でとくに重要な産業であったことを、しっかり確認しておこう。また、養蚕業が桑を栽培して蚕を飼育することで生産した繭は、短時間で変質してしまう。このため、製糸業が養蚕業の盛んな地域への立地を指向する原料産地立地型工業となることも、確認しておきたい。また、用水は動力だけでなく、繰糸などの工程でも大量に必要とされる。

なお、富岡に製糸場が現在の地に建設された理由として、上記2点のほかに、工場建設に必要な広い土地の確保が容易であった、付近の高崎などで燃料となる石炭が採掘された、外国人指導の工場建設に地元住民の理解が得られた、なども挙げられる。

【配点の目安】（配点 33 点）

設問 A（7 点）※下線の引き忘れはいくつあっても（－1）

- ①有明海は干満の差が大きい … 2 点
 - ②干潮時には（広大な）干潟が出現する … 1 点
 - ③船舶の係留を可能にするように工夫した … 2 点
 - ④干潮時には水門を閉鎖して三池港の（最奥部に）一定の水深を維持した … 2 点
- ※③の具体的な内容を示す。

設問 B

(1)（2 点）※下線の引き忘れはいくつあっても（－1）

- ①神通川沿いに鉄道で日本海側の（富山）港へ輸送した … 1 点
- ②（①の後）船舶で三池港へ輸送した … 1 点

(2)（7 点）

＜出炭量について＞

- ①第二次世界大戦時の石炭増産政策で増加した … 2 点
 - ②大戦末期の空襲や終戦（後の混乱）で激減した … 2 点
- ※「空襲」もしくは「終戦（後の混乱）」が原因で減少したことを押さえていれば可。
- ③（戦後復興時も）設備の老朽化などにより落ち込んだ状態が続いた … 1 点

＜人口について＞

- ④戦後復興とともに回復した … 2 点

(3)（4 点）

- ①三池炭鉱で産出された石炭の安定供給先を確保する … 2 点
- ②産業の多角化によってこの地域の振興をはかる … 2 点

(4)（6 点）

- ①円高の進行による輸入アルミニウムとの競争の激化 … 2 点
 - ②2 度の石油危機や公害規制強化などによる製造コストの上昇 … 2 点
- ※石油危機による製造コストの上昇を押さえていれば可。
- ③（①・②の結果）採算が悪化して事業継続が困難となり、閉鎖された … 2 点

設問 C

(1)（完答 2 点）

(2)（5 点）

＜都道府県名＞

- ①群馬県 … 1 点

＜理由 1＞

- ②養蚕業が盛んであった、もしくは、（生糸の）原料となる繭の確保が容易であった … 2 点

＜理由 2＞

- ③動力となる用水の確保も容易であった … 2 点

【2】

解答例

設問 A

- (1) アー沖縄電力, イー九州電力, ウー北陸電力, エー東京電力
- (2) 総発電量に占める水力発電の割合が他に比べて突出して高いため, 包蔵水力の豊富な中央高地に接する事業者と判断される。(56 字)
- (3) 活動が活発な阿蘇山, 霧島山などの火山地帯を有するため。(27 字)

設問 B

- (1) カー火力, キー原子力, クー水力
- (2) 東日本大震災での事故を契機として原子力発電の安全神話が崩壊した結果, 多くの原子力発電所が運転中止に追い込まれたため。(58 字)

設問 C

- (1) サー石油, シー石炭, スーLNG
- (2) 1970 年代の石油危機や近年の原油価格の高騰などを背景に石油離れが進み, 石炭が見直されるとともにLNGの利用が進んだ。また, 近年は環境負荷の小ささから, LNGの利用が活発化している。(89 字)

解説

《日本のエネルギー事情》

日本の発電に関して出題した。発電の特色はその時代の経済・社会状況を反映し, また地域の気候・地形なども反映する。入試では問われやすいテーマであるので, 確実に得点できるようにしておきたい。

設問 A.

日本の一般電気事業者(北海道電力, 東北電力, 東京電力, 中部電力, 北陸電力, 関西電力, 中国電力, 四国電力, 九州電力, 沖縄電力の 10 事業者)のうち, 4 事業者(東京電力, 北陸電力, 九州電力, 沖縄電力)それぞれの発電所別発電量と総発電量を示した表 2-1 について出題した。

表 2-1 のア～エに該当する事業者を適切に判断できれば, (1)～(3)も得点可能である。次のように考えればよい。

ア: 総発電量が 4 事業者の中で最も少ない上, 水力発電が皆無である。よって, 管内の電力需要が最も小さい上, 管内に大きな河川の発達が見られず, 包蔵水力(水資源のうち, 利用可能な水力エネルギー量のこと)に最も恵まれていない沖縄電力と判断する。

イ: 総発電量が 4 事業者の中で 2 番目に多い上, 地熱発電による発電量が他に比べて極めて多い。よって, 管内に活発に活動している阿蘇山, 霧島山などが位置する火山地帯を有する九州電力と判断する。

2013 年 3 月末現在, 九州電力は八丁原地熱発電所, 八丁原バイナリー地熱発電所, 大岳地熱発電所, 滝上地熱発電所(以上, 大分県玖珠郡九重町), 山川地熱発電所(鹿児島県指宿市), 大霧地熱発電所(鹿児島県霧島市)を稼働させている。

ウ: 総発電量が 4 事業者の中で 2 番目に少ない上, 総発電量に占める水力発電の割合が約

21%と他に比べて突出して高い。よって、包蔵水力の豊富な中央高地（日本アルプスなど）に接する地域を管内に持つ北陸電力と判断する。冬の北西季節風がもたらす地形性降雪の影響が大きいことも理解しておきたい。

エ：総発電量が4事業者の中で最も多い。よって、巨大な電力需要が存在する大都市圏を管内に持つ東京電力と判断する。

設問B.

日本の発電源別発電量（火力、原子力、水力）の推移を示した図2－1について出題した。

(1).

図2－1中のカ～クに該当する発電方式が、火力、原子力、水力のいずれであるか判断するよう求めた。

今日の日本の発電の中心となっていることに注目して、カを火力と判断する。また、1960年代から1970年代初頭の発電量が極めて少なかったことに注目して、キを原子力と判断する。

(2).

図2－1中のキ（原子力）による発電量が近年急減している理由を、説明するよう求めた。

解答例に示したように、(i)2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う津波、さらにその後の余震により引き起こされた東日本大震災では、福島第一原子力発電所の事故が発生し、これを契機として原子力発電の安全神話が崩壊したこと、(ii)その結果、多くの原子力発電所が運転中止に追い込まれたことを指摘すればよい。

今日、多くの原子力発電所が運転を停止しており、火力発電による代替発電が行われている。このため、2011年度および2012年度には、火力発電用に消費される燃料が2010年度よりも大きく増大している。とくに、火力発電の主力エネルギー源となっている石炭とLNG（液化天然ガス）の消費量の増加が顕著であることに注意しよう。また、この結果、石炭とLNGの輸入量も大きく増加してしていることも確認しておこう。世界経済の減速を背景にEUや中国向けの輸出が大きく減少したことなども影響して、2011年の日本の貿易収支が31年ぶりに赤字に転落したことも、併せて確認しておきたい。

設問C.

日本の一般電気事業者それぞれの、火力発電の燃焼方式別発電量（LNG、石炭、石油）の推移を示した図2－2について出題した。

(1).

図2－2のサ～スに該当する燃焼方式が、LNG、石炭、石油のいずれであるか判断するよう求めた。

1970年に利用されていなかったことに注目して、スをLNG（液化天然ガス）と判断する。また、1970～1980年にその地位を低下させたものの、その後再び利用が活発化している点に注目して、シを石炭と判断する。さらに、1970～1980年に火力発電の燃焼方式の中心となっていたことに注目して、サを石油と判断する。

(2).

日本の一般電気事業者の火力発電の燃焼方式別発電量が図2－2に見られるような変化を示している理由を、2つの指定語句（価格、環境）をすべて用いて説明するよう求めた。

解答例に示したように、(i)1970年代の2度の石油危機や近年の原油価格高騰などを背景と

して石油離れが進み、石炭の見直しが行われるとともに、LNGの利用が行われるようになったことを指摘することと、(ii)環境負荷の小ささから、近年LNGの利用が活発化していることを指摘することがポイントである。

石炭は、産業革命以降、20世紀初頭までの間、最も重要なエネルギー源とされていたが、第一次世界大戦前後から、石炭と比べて約2倍の熱量を有する石油の利用が活発化してきた。さらに、第二次世界大戦後に中東での油田開発が進んで原油価格が低下すると、1960年代には主力エネルギー源が石炭から石油へ移行するエネルギー革命が進行した。しかし、1970年代の2度の石油危機の影響で石油の価格が高騰すると、産業用や火力発電用の燃料は石炭へ回帰することになった。近年は燃焼時に排出される二酸化炭素(CO₂)の量が多いため、地球温暖化対策の観点より石炭から天然ガスへの移行も見られる。にも関わらず、埋蔵量の豊富さ、分布の普遍性、価格の安定性などの面から、石炭は今日も日本にとって産業用や火力発電用の重要なエネルギー源となっていることを確認しておこう。

【配点の目安】（配点 32 点）

設問 A

(1) （完答 2 点）

(2) （6 点）

①総発電量に占める水力発電の割合が（他に比べて突出して）高い … 3 点

②（①より）包蔵水力の豊富な中央高地に接する事業者と判断する … 3 点

※「包蔵水力の豊富な」の代わりに「水資源が豊かである」ことがわかれば可。「中央高地」の代わりに「日本アルプス」「飛騨山脈」などでも可。

※「（北陸電力管内では）地形性降水（融雪水）を利用した水力発電が盛ん」ことを指摘しても可。

(3) （4 点）

①火山地帯を有する … 2 点

②（活動が活発な）阿蘇山、霧島山など … 2 点

※具体的な地名として「阿蘇山」「霧島山」のいずれかを挙げれば可。

※火山名の代わりに、地熱発電所名や地熱発電所の所在地を挙げても可。

設問 B

(1) （完答 2 点）

(2) （6 点）

①東日本大震災での事故を契機として … 2 点

※「福島第一原子力発電所の事故」を指摘しても可。

②原子力発電の安全神話が崩壊した … 2 点

③（②の結果）多くの原子力発電所が運転中止に追い込まれた … 2 点

設問 C

(1) （完答 2 点）

(2) （10 点） ※下線の引き忘れはいくつあっても（－1）

①石油離れが進んだ … 2 点

②（①の背景として）

（1970 年代の）石油危機 … 2 点

近年の原油価格の高騰 … 1 点

③（①の結果として）石炭が見直された … 2 点

④（①の結果として、あるいは近年の状況として）LNG の利用が活発化している … 2 点

⑤（④の理由：LNG の長所として）環境負荷が小さい … 1 点

【3】

解答例

設問A

- (1) アーモンゴル, イー中国
- (2) 広大な乾燥気候地域がX群には出現するが, Y群にはしないから。(30字)
- (3) 過剰な土地利用によって急激な植生破壊が引き起こされており, 土壌侵食が活発化して, 荒地化や砂漠化が進行している。(55字)

設問B

- (1) (e)
- (2) 天然ゴムなど一次産品の輸出に依存するモノカルチャー経済となっていたため, 国家経済が不安定であった。この状況から脱却するため, 積極的な外資導入により輸出指向型工業化を推進した。この結果, 電気機械工業などの製造業を基幹産業とするようになった。(119字)
- (3) K国では, 多数派先住民族であるにも関わらず経済的地位の低いマレー系住民の社会的地位を向上させるために, マレー語が唯一の国語とされた。一方, L国では, 民族融和をはかるために多文化政策が採用され, 中国語, マレー語, タミル語, 英語を公用語とした。

(120字)

設問C

- (1) Pはコーカソイドに属するアラブ民族, Qはネグロイド系諸民族, Rはマレー=ポリネシア系民族がそれぞれ優勢な地域である。(58字)
- (2) サー米, シーイモ類, スー小麦
- (3) マダガスカルはアジアの色彩が強く稲作が盛んであり, P地域は乾燥地域が広がるため耐乾性に優れた小麦栽培が盛んであり, Q地域は熱帯地域が広がるため焼畑によるイモ類栽培が盛んである。(88字)

解説

《アジア・アフリカ地誌》

東アジア, 東南アジア, アフリカの地誌を出題した。

設問A.

- (1)・(2).

韓国, 北朝鮮, 中国(台湾を含む), モンゴルにおける「国土面積に占める農地面積の割合」と「国土面積に占める森林面積の割合」を示した統計データに関する出題である。

「国土面積に占める森林面積の割合」は, ケッペンの気候区分で言う無樹木気候区(BW, BS, EF, ET)が広い面積を占める国で低くなる。また, 「国土面積に占める農地面積の割合」は, 脚注にあるように「国土面積に占める耕地・樹園地と牧場・牧草地の割合」である。これらの点に注目して考えれば, X群が国土に広大な乾燥気候地域(BW・BS)の出現する中国とモンゴル, Y群がそうではない朝鮮半島の2国(韓国と北朝鮮)のデータであると判断できよう。もちろん, X群は, 「国土面積に占める森林面積の割合」が7.1%ととくに低いアがモンゴル, 残るイが中国のデータである。

Y群に関しては, ウ・エのいずれかが韓国・北朝鮮のデータであるかを識別できる必要はない。参考までに述べておくと, ウが北朝鮮, エが韓国のデータである。

(3).

X 群の国（アのモンゴル，イの中国）では，「国土面積に占める農地面積の割合」，すなわち，「国土面積に占める耕地・樹園地と牧場・牧草地の割合」が高い値を示す一方で，「国土面積に占める森林面積の割合」が低い値を示しており，過剰な土地利用とそれに伴う森林破壊が進行していることを推察できよう。そうすれば，過剰な土地利用による土壌侵食，荒地化，砂漠化の発生を指摘することができるはずだ。中国政府は，傾斜地や乾燥地域において耕地を森林や草地に戻す「退耕還林」や「退耕還草」のほか，家畜飼育を禁止する「退牧還草」によって土壌侵食，荒地化，砂漠化の発生を克服しようとしていることも，あわせて頭に入れておこう。

設問 B.

K 国はマレーシア，L 国はシンガポールをさしている。

(1).

シンガポールは韓国，台湾，ホンコンとともにアジア N I E s の一員に数えられ，経済面で A S E A N の先頭を走っている。2011 年の 1 人当たり G N I は 49,006 ドルと，日本の 48,084 ドルを上回りアジア最高水準を示している。

(2).

マレーシアは，独立後もイギリス植民地時代から続く天然ゴムやスズ鉱などの一次産品の輸出に依存するモノカルチャー経済であった。しかし，一次産品の国際価格の変動に国家経済が翻弄されて国家の安定をはかる上で障害となったため，1980 年代以降，積極的な外資導入により輸出指向型工業化を推進した。この結果，高い経済成長を達成した上，今日は電気機械工業などの製造業が基幹産業と化すことになり，新興工業国の一員としての地位を構築している。

(3).

マレーシアもシンガポールも先住民族のマレー系住民と，移入民族である中国系住民およびインド系住民を中心とする多民族複合国家となっている。しかし両国の民族政策，文化政策には，大きな差異が生じている。マレーシアでは，総人口の約 65% を占めているにも関わらず，経済的地位の低いマレー系住民の社会的地位を向上させることを主眼としてプミブトラ（マレー系優遇）政策が採用され，マレー語が国語，イスラム教が国教とされた。一方，シンガポールでは，総人口の約 75% を占めて政治・経済の実権を支配している中国系住民が，国民の融和を図る目的で多文化政策を採用している。このため，シンガポールでは，4 言語（中国語，マレー語，タミル語，英語）が公用語とされ，なかでも英語が共通語としての地位を有することになっている。

設問 C.

(1).

アフリカの地域区分としては，サハラ砂漠を境として，アラビア語を用いてイスラム教を信仰するコーカソイドのアラブ系民族が優勢な北アフリカ（P・「白いアフリカ」とも呼ばれる）と，ネグロイドの諸民族が優勢な中・南アフリカ（「黒いアフリカ」とも呼ばれる）に二分する考え方がよく知られている。しかし，図 3-1 では，後者がマダガスカル（R）とそれ以外の地域（Q）に区分されている。

マダガスカルは「アジアに最も近いアフリカ」と呼ばれることがあることから明らかなように，アフリカのなかでも極めてアジア的色彩の強い地域となっている。これは，この地域に

最初に居住した人々が、現在はインドネシア、マレーシア、ブルネイの領土に分割されているカリマンタン島から航海カヌーでインド洋を横断してこの地に移住したマレー=ポリネシア系の人々であったことに起因している。今日は、のちにアフリカ大陸東部から移住してきた人々との間で混血が進行しているものの、このような歴史を背景としてマダガスカルの文化はインドネシアとの結びつきを強く有するものとなっている。

(2)・(3).

図3-1に示された3地域(P~R)それぞれに位置する3カ国(p~r)における3種類の農産物(イモ類, 小麦, 米)の生産量データをみて、いずれがどの農産物の生産量データであるか判断することを求めた。各作物の栽培適地がどのような場所であるのか、各地域の自然環境や文化の特色と農業経営の相関性はどうなっているのかなどの点に注目して考えればよい。

そうすれば、先述したように、r国(マダガスカル)ではインドネシアとの文化的結びつきが強く、稲作が盛んに行われている。よって、この国での生産量が突出して多いサが、米の生産量を示すものである。また、国土の大部分が乾燥地域で占められているP地域に位置するp国での生産量が突出して多いスが、耐乾性に優れた小麦の生産量を示すものである。さらに、熱帯気候地域が広い面積を占めるQ地域に位置するq国での生産量が突出して多いことや、他の2国でも生産が盛んに行われていることから、シがイモ類の生産量を示すものである。

【配点の目安】（配点 35 点）

設問 A

(1)（完答 2 点）

(2)（2 点）

※広大な乾燥気候地域が X 群には出現する（が、Y 群にはしない）ことがわかれば可。

(3)（4 点）

①過剰な土地利用 … 1 点

②（①による）植生破壊 … 2 点

③（②の結果）土壌侵食の活発化、もしくは、荒地化・砂漠化の進行 … 1 点

設問 B

(1)（1 点）

(2)（8 点） ※下線の引き忘れはいくつあっても（－1）

①一次産品の輸出に依存するモノカルチャー経済となっていた … 2 点

②輸出指向型工業化を推進 … 2 点

③積極的な外資導入 … 2 点

④電気機械工業などの製造業が基幹産業となっている … 2 点

(3)（8 点） ※下線の引き忘れはいくつあっても（－1）

< K 国について >

① K 国はマレー語が国語 … 2 点

②先住民族のマレー系住民の社会的地位の向上をめざす … 2 点

< L 国について >

③ L 国は 4 言語（中国語・マレー語・タミル語・英語）が公用語 … 2 点

④多文化政策により民族融和をめざす … 2 点

設問 C

(1)（3 点）

① P：アラブ民族が優勢 … 1 点

② Q：ネグロイド系諸民族が優勢 … 1 点

③ R：マレー（＝ポリネシア）系民族が優勢 … 1 点

(2)（完答 2 点）

(3)（5 点）

① P：乾燥地域→耐乾性に優れた小麦栽培が盛ん … 2 点

② Q：熱帯地域→焼畑によるイモ類栽培が盛ん … 2 点

③ R：アジア的色彩が強く稲作が盛ん … 1 点



会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--